(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2024-63392
(P2024-63392A)
(43)公開日　令和6年5月13日(2024.5.13)

(51)国際特許分類		FI		テーマコード（参考）
Ａ６１Ｋ	*8/81 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/81	４Ｃ０８３
Ａ６１Ｋ	*8/36 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/36	
Ａ６１Ｋ	*8/34 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/34	
Ａ６１Ｋ	*8/42 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/42	
Ａ６１Ｋ	*8/92 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/92	

審査請求　未請求　請求項の数　9　ＯＬ　（全20頁）　最終頁に続く

(21)出願番号　特願2022-171297(P2022-171297)
(22)出願日　令和4年10月26日(2022.10.26)

(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　110002620
弁理士法人大谷特許事務所
(72)発明者　松井　領市
和歌山県和歌山市湊１３３４番地　花王株式会社研究所内

Ｆターム（参考）　4C083　AC011 AC022 AC071 AC072
AC171 AC241 AC301 AC302
AC331 AC332 AC352 AC641
最終頁に続く

(54)【発明の名称】　油性組成物

(57)【要約】
【課題】低せん断速度下では粘度が高く、高せん断速度下では粘度が低くなるというシェアシニング性を有するとともに、せん断応力をかけた後の弾性率の回復性が高い油性組成物を提供する。
【解決手段】下記成分（Ａ）～（Ｃ）を含有する、油性組成物。
成分（Ａ）：アルキル基の炭素数が１０以上３０以下である（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位を含むノニオン性水不溶性ポリマー
成分（Ｂ）：ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸、炭素数１０以上３０以下のアルコール、及び炭素数１０以上３０以下のカルボン酸のアミドからなる群から選ばれる１種以上の油性成分
成分（Ｃ）：成分（Ｂ）以外の油性成分
【選択図】なし

【特許請求の範囲】
【請求項１】
下記成分（Ａ）～（Ｃ）を含有する、油性組成物。
成分（Ａ）：アルキル基の炭素数が１０以上３０以下である（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位を含むノニオン性水不溶性ポリマー
成分（Ｂ）：ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸、炭素数１０以上３０以下のアルコール、及び炭素数１０以上３０以下のカルボン酸のアミドからなる群から選ばれる１種以上の油性成分
成分（Ｃ）：成分（Ｂ）以外の油性成分
【請求項２】
前記成分（Ａ）の融点が３０℃以上である、請求項１に記載の油性組成物。
【請求項３】
前記成分（Ａ）中の前記（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位の含有量が１０質量％以上である、請求項１又は２に記載の油性組成物。
【請求項４】
前記成分（Ａ）における前記（メタ）アクリル酸アルキルがアクリル酸ステアリル及びアクリル酸ベヘニルからなる群から選ばれる１種以上である、請求項１～３のいずれか１項に記載の油性組成物。
【請求項５】
前記油性組成物中の前記成分（Ａ）の含有量が１質量％以上である、請求項１～４のいずれか１項に記載の油性組成物。
【請求項６】
前記成分（Ｂ）がヒドロキシステアリン酸、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、及びオレイン酸アミドからなる群から選ばれる１種以上である、請求項１～５のいずれか１項に記載の油性組成物。
【請求項７】
前記成分（Ｃ）が炭化水素油、エステル油、エーテル油、シリコーン油、高級脂肪酸、フッ素系油、及びロウ類からなる群から選ばれる１種以上である、請求項１～６のいずれか１項に記載の油性組成物。
【請求項８】
請求項１～７のいずれか１項に記載の油性組成物と、水とを含有する乳化組成物。
【請求項９】
請求項１～７のいずれか１項に記載の油性組成物、又は請求項８に記載の乳化組成物を含有する化粧料。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、油性組成物に関する。
【背景技術】
【０００２】
油性成分を主体とする組成物は、口紅、リップクリーム、その他皮膚用化粧料等の、各種外用剤組成物として用いられている。中でも固体の外用剤組成物は、固形製剤としての形状を保持するのに十分な硬さを有しながら、対象物に均一に塗り広げやすく、対象物への塗布後には落ちにくく、効果の持続性に優れることが求められる。
【０００３】
外用剤組成物に上記特性を付与するには、組成物のレオロジー制御が重要になる。一般に、組成物のレオロジー制御剤として増粘剤等を用いることは知られている。
増粘剤を配合したゲル製剤の例として、例えば特許文献１には、Ｃ１－４アルコール、有効量のポリアクリレート増粘剤、及び所定のポリマーエステルである詰り防止添加剤を含む水性アルコールゲル組成物により、ディスペンサーノズルの詰まり発生が低減できる

ことが開示されている。
特許文献２には、ヒドロキシクエン酸誘導体及び／又はその塩、並びに前記ヒドロキシクエン酸誘導体および／または前記ヒドロキシクエン酸誘導体の塩の効果促進剤として、油性基剤、増粘・ゲル化剤等を含有する化粧料または皮膚外用剤が、ヒドロキシクエン酸類の単体での性能と比べて、効果、保存安定性等の製剤性能が向上することが開示されている。
特許文献３には、水溶性ポリマーと、水溶性ポリマーに対してイオン的及び／又は静電的に相互作用するカウンターとを含む非水系用増粘剤、並びに、該増粘剤を含む増粘組成物が、非水系溶媒を主とする組成物であっても、透明性が高く、かつ使用性が高いことが開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特表２０１１－５１７３１０号公報
【特許文献２】特開２０１４－１１４２９１号公報
【特許文献３】国際公開第２０１９／４４３２７号
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
固形製剤としての形状を保持するのに十分な硬さを有しながら、対象物に均一に塗り広げやすい外用剤組成物は、低せん断速度下では粘度が高く、すなわち硬さを有し、且つ、高せん断速度下では粘度が低くなるというシェアシニング性を有することが重要である。また、対象物に塗布した後にも落ちにくい外用剤組成物とするには、該組成物を塗布した後、すなわちせん断応力をかけた後に一度弾性率が低下しても回復が早いという特性（弾性率の回復性）が必要である。
しかしながら、上記シェアシニング性と弾性率の回復性とを備えた油性組成物は、特許文献１～３の開示技術では実現できていない。
【０００６】
本発明は、低せん断速度下では粘度が高く、高せん断速度下では粘度が低くなるというシェアシニング性を有するとともに、せん断応力をかけた後の弾性率の回復性が高い油性組成物に関する。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明者は、所定のノニオン性水不溶性ポリマー及び所定の油性成分の組み合わせを含む油性組成物が、上記課題を解決できることを見出した。
すなわち本発明は、下記に関する。
［１］下記成分（Ａ）～（Ｃ）を含有する、油性組成物。
成分（Ａ）：アルキル基の炭素数が１０以上３０以下である（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位を含むノニオン性水不溶性ポリマー
成分（Ｂ）：ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸、炭素数１０以上３０以下のアルコール、及び炭素数１０以上３０以下のカルボン酸のアミドからなる群から選ばれる１種以上の油性成分
成分（Ｃ）：成分（Ｂ）以外の油性成分
［２］上記［１］に記載の油性組成物と、水とを含有する乳化組成物。
［３］上記［１］に記載の油性組成物、又は上記［２］に記載の乳化組成物を含有する化粧料。
【発明の効果】
【０００８】
本発明によれば、低せん断速度下では粘度が高く、高せん断速度下では粘度が低くなるというシェアシニング性を有するとともに、せん断応力をかけた後の弾性率の回復性が高

い油性組成物を提供できる。該油性組成物は、外用剤として用いると、固形製剤としての形状を保持するのに十分な硬さを有しながら、対象物に均一に塗り広げやすく、対象物への塗布後には落ちにくく、効果の持続性に優れる。

【発明を実施するための形態】

【０００９】

［定義］

本明細書において「油性組成物」とは、油性成分を主成分とする組成物であり、油性成分とは、水不溶性の成分を意味する。

本明細書において「水不溶性」とは、２５℃の水１００ｇに対する溶解性が０．１ｇ以下であることを意味する。

本明細書において「Ｘ及びＹを含有する組成物」は、Ｘ及びＹを配合した組成物も包含するものとする。

本明細書において「（メタ）アクリル」は、アクリル及びメタクリルを包含するものとする。

【００１０】

本明細書において「ノニオン性ポリマー」とは、カチオン性基、アニオン性基、両性基等のイオン性基を実質的に含有しないポリマーである。

本明細書においてカチオン性基とは、カチオン基、又は、イオン化されてカチオン基になり得る基であり、具体的には、第一級アミノ基、第二級アミノ基、第三級アミノ基、第四級アンモニウム基が挙げられる。

アニオン性基とはアニオン基、又は、イオン化されてアニオン基になり得る基であり、具体的には、カルボキシ基、スルホン酸基、リン酸基等の酸性基からなる群から選ばれる１種以上が挙げられる。また、アニオン性基の少なくとも一部は中和され、塩の状態になっているものもアニオン性基に含まれる。

また両性基としては、ベタイン構造を含む基が挙げられる。

【００１１】

［油性組成物］

本発明の油性組成物（以下、単に「本発明の組成物」ともいう）は、下記成分（Ａ）～（Ｃ）を含有する。

成分（Ａ）：アルキル基の炭素数が１０以上３０以下である（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位を含むノニオン性水不溶性ポリマー

成分（Ｂ）：ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸、炭素数１０以上３０以下のアルコール、及び炭素数１０以上３０以下のカルボン酸のアミドからなる群から選ばれる１種以上の油性成分

成分（Ｃ）：成分（Ｂ）以外の油性成分

本発明の油性組成物は上記構成を有することにより、低せん断速度下では粘度が高く、高せん断速度下では粘度が低くなるというシェアシニング性を有するとともに、せん断応力をかけた後の弾性率の回復性が高い油性組成物となる。

「シェアシニング性」とは、低せん断速度下における粘度と、高せん断速度下では粘度との差が大きいことを意味する。以下、特に断りのない限り、上記に加えて、低せん断速度下では高粘度であり、高せん断速度下では低粘度を示すことを単に「シェアシニング性」と記載する。また、せん断応力をかけた後の弾性率の回復性を単に「弾性率の回復性」ともいう。

【００１２】

本発明の油性組成物が上記効果を奏する理由については定かではないが、次のように考えられる。

油性組成物中で成分（Ａ）は高分子ゲル化剤、成分（Ｂ）は低分子ゲル化剤として作用していると考えられる。成分（Ａ）はノニオン性水不溶性ポリマーであることで、油性成分である成分（Ｂ）及び成分（Ｃ）との親和性が高く、油性組成物中でゲル化剤として有効に作用する。

成分（Ｂ）は低分子化合物同士の結晶構造の絡み合いにより硬いゲル構造を形成することができる。また、該ゲル構造はせん断応力をかけると崩れやすく、対象物に塗り広げやすいという性能を発現する。その一方で、成分（Ｂ）のみから構成された前記ゲル構造は、せん断応力をかけて一度崩れた後には弾性率が回復し難い傾向がある。

これに対し、成分（Ａ）は高分子鎖の絡み合いによりゲル構造を形成し、該ゲル構造は、せん断応力をかけて一度崩れても回復しやすい。本発明の油性組成物は、上記成分（Ａ）及び成分（Ｂ）を含む複合ゲル構造を有しているために、低せん断速度下では粘度が高く、高せん断速度下では粘度が低くなるというシェアシニング性を有するとともに、せん断応力をかけた後の弾性率の回復性が高いという特性を発現し得ると考えられる。

成分（Ｃ）は、成分（Ａ）及び成分（Ｂ）を溶解させ、油性組成物において、シェアシニング性及び弾性率の回復性を有効に発揮させることに寄与する。

【００１３】

＜成分（Ａ）：ノニオン性水不溶性ポリマー＞

本発明の油性組成物は、成分（Ａ）として、アルキル基の炭素数が１０以上３０以下である（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位を含むノニオン性水不溶性ポリマーを含有する。成分（Ａ）は、油性組成物にせん断応力をかけた後の弾性率の回復性を向上させる効果を奏する。

【００１４】

前記（メタ）アクリル酸アルキルが有するアルキル基の炭素数は、成分（Ａ）の水不溶性、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、１０以上であり、好ましくは１２以上、より好ましくは１４以上、さらに好ましくは１６以上であり、また、３０以下、好ましくは２８以下、より好ましくは２６以下、さらに好ましくは２４以下、よりさらに好ましくは２０以下である。

前記（メタ）アクリル酸アルキルが有するアルキル基は、直鎖アルキル基、分岐鎖アルキル基のいずれも用いることができるが、成分（Ａ）の水不溶性、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、直鎖アルキル基が好ましい。

【００１５】

成分（Ａ）は、アルキル基の炭素数が１０以上３０以下である（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位を２種以上含むこともできる。

前記（メタ）アクリル酸アルキルは、アクリル酸アルキル、メタクリル酸アルキル、又はこれらの混合物のいずれでもよいが、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、アクリル酸アルキルを含むことが好ましい。前記（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位中のアクリル酸アルキル由来の構成単位の含有量は、好ましくは５０質量％以上、より好ましくは７０質量％以上、さらに好ましくは８０質量％以上、よりさらに好ましくは９０質量％以上、よりさらに好ましくは９５質量％以上であり、１００質量％以下である。

【００１６】

アルキル基の炭素数が１０以上３０以下である（メタ）アクリル酸アルキルの具体例としては、（メタ）アクリル酸デシル、（メタ）アクリル酸ウンデシル、（メタ）アクリル酸ラウリル、（メタ）アクリル酸トリデシル、（メタ）アクリル酸テトラデシル、（メタ）アクリル酸ペンタデシル、（メタ）アクリル酸ヘキサデシル、（メタ）アクリル酸ヘプタデシル、（メタ）アクリル酸ステアリル、（メタ）アクリル酸イソステアリル、（メタ）アクリル酸ノナデシル、（メタ）アクリル酸エイコシル、（メタ）アクリル酸ヘンエイコシル、（メタ）アクリル酸ベヘニル、（メタ）アクリル酸トリコシル、（メタ）アクリル酸テトラコシル、（メタ）アクリル酸ペンタコシル、（メタ）アクリル酸ヘキサコシル、（メタ）アクリル酸ヘプタコシル、（メタ）アクリル酸オクタコシル、（メタ）アクリル酸ノナコシル、（メタ）アクリル酸トリアコンチル等が挙げられ、これらのうち１種又は２種以上を用いることができる。

【００１７】

上記の中でも、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、前

記（メタ）アクリル酸アルキルは、好ましくは（メタ）アクリル酸ラウリル、（メタ）アクリル酸トリデシル、（メタ）アクリル酸テトラデシル、（メタ）アクリル酸ペンタデシル、（メタ）アクリル酸ヘキサデシル、（メタ）アクリル酸ヘプタデシル、（メタ）アクリル酸ステアリル、（メタ）アクリル酸イソステアリル、（メタ）アクリル酸ノナデシル、（メタ）アクリル酸エイコシル、（メタ）アクリル酸ヘンエイコシル、（メタ）アクリル酸ベヘニル、（メタ）アクリル酸トリコシル、及び（メタ）アクリル酸テトラコシルからなる群から選ばれる１種以上であり、より好ましくは（メタ）アクリル酸ラウリル、（メタ）アクリル酸トリデシル、（メタ）アクリル酸テトラデシル、（メタ）アクリル酸ヘキサデシル、（メタ）アクリル酸ステアリル、（メタ）アクリル酸イソステアリル、及び（メタ）アクリル酸ベヘニルからなる群から選ばれる１種以上であり、さらに好ましくは（メタ）アクリル酸テトラデシル、（メタ）アクリル酸ヘキサデシル、（メタ）アクリル酸ステアリル、（メタ）アクリル酸イソステアリル、及び（メタ）アクリル酸ベヘニルからなる群から選ばれる１種以上であり、よりさらに好ましくは（メタ）アクリル酸ステアリル及び（メタ）アクリル酸ベヘニルからなる群から選ばれる１種以上であり、よりさらに好ましくはアクリル酸ステアリル及びアクリル酸ベヘニルからなる群から選ばれる１種以上であり、よりさらに好ましくはアクリル酸ステアリルである。

【００１８】

成分（Ａ）中の前記（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位の含有量は、成分（Ａ）の水不溶性、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、成分（Ａ）の全構成単位中、好ましくは１０質量％以上であり、より好ましくは３０質量％以上、さらに好ましくは５０質量％以上、よりさらに好ましくは７０質量％以上、よりさらに好ましくは８０質量％以上、よりさらに好ましくは９０質量％以上、よりさらに好ましくは９５質量％以上であり、１００質量％以下である。

【００１９】

すなわち成分（Ａ）は、アルキル基の炭素数が１０以上３０以下である（メタ）アクリル酸アルキル由来の構成単位のみからなるポリマーであってもよく、本発明の効果を損なわない範囲で他の構成単位を含むこともできる。

当該他の構成単位は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、前記（メタ）アクリル酸アルキルとの共重合が可能な化合物由来の構成単位であることが好ましい。該化合物としては、ノニオン性化合物が好ましく、例えば、（メタ）アクリル酸メチル、（メタ）アクリル酸エチル、（メタ）アクリル酸プロピル、（メタ）アクリル酸ブチル等の、アルキル基の炭素数が１以上９以下の（メタ）アクリル酸アルキル；（メタ）アクリル酸シクロヘキシル、（メタ）アクリル酸イソボルニル、（メタ）アクリル酸ジシクロペンタニル、（メタ）アクリル酸アダマンチル等の、脂環式構造を有する（メタ）アクリル酸エステル；（メタ）アクリル酸フェニルエチル、（メタ）アクリル酸ベンジル等の、芳香環を有する（メタ）アクリル酸エステル；ポリアルキレングリコール（メタ）アクリレート；ヒドロキシアルキル（メタ）アクリレート等の（メタ）アクリル酸エステル、並びに、酢酸ビニル等のビニルエステルが挙げられる。

【００２０】

成分（Ａ）の融点は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、好ましくは３０℃以上であり、より好ましくは４０℃以上、さらに好ましくは４５℃以上であり、また、好ましくは１５０℃以下、より好ましくは１２０℃以下、さらに好ましくは１００℃以下、よりさらに好ましくは９０℃以下、よりさらに好ましくは８０℃以下、よりさらに好ましくは７０℃以下、よりさらに好ましくは６５℃以下である。

成分（Ａ）の融点は、具体的には実施例に記載の方法により測定できる。

【００２１】

成分（Ａ）の重量平均分子量（Ｍｗ）は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、好ましくは１万以上であり、より好ましくは５万以上、さらに好ましくは８万以上であり、また、好ましくは５００万以下、より好ましくは３００万以下、さらに好ましくは１００万以下である。

成分（Ａ）の重量平均分子量は、ゲルろ過クロマトグラフィー（ＧＰＣ）法により、例えば下記条件で測定することができる。
〔測定条件〕
カラム：「Ｋ－８０６Ｌ」（昭和電工(株)製）を２本直列に連結
カラム温度：４０℃
溶離液：１ｍｍｏｌ／Ｌジメチルラウリルアミン、クロロホルム溶液
（ジメチルラウリルアミン：ファーミンＤＭ２０９８：花王（株）製）
流速：１．０ｍＬ／ｍｉｎ
検出器：示差屈折率検出器
標準物質：ポリスチレン

【００２２】
成分（Ａ）として市販品を用いることもできる。例えば、ＥＶＯＮＩＫ製の「ＴＥＧＯ ＳＰ １３－１」（ポリ（アクリル酸ステアリル））、「ＴＥＧＯ ＳＰ １３－６」（ポリ（アクリル酸ベヘニル））等が挙げられる。

【００２３】
＜成分（Ｂ）：ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸、炭素数１０以上３０以下のアルコール、及び炭素数１０以上３０以下のカルボン酸のアミドからなる群から選ばれる１種以上の油性成分＞
本発明の組成物は、成分（Ｂ）として、ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸、炭素数１０以上３０以下のアルコール、及び炭素数１０以上３０以下のカルボン酸のアミドからなる群から選ばれる１種以上の油性成分を含有する。成分（Ｂ）は、主として油性組成物中でのシェアシニング性を向上させる効果を奏する。

【００２４】
（ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸）
ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸は、油性組成物のシェアシニング性向上の観点から、好ましくはヒドロキシ基を有する、炭素数１２以上、より好ましくは１４以上、さらに好ましくは１６以上であり、また、好ましくは２８以下、より好ましくは２４以下、さらに好ましくは２２以下の脂肪酸である。
前記脂肪酸は、飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸のいずれでもよいが、油性組成物のシェアシニング性向上の観点から、好ましくは飽和脂肪酸である。
前記脂肪酸が有するヒドロキシ基数は、好ましくは１以上３以下、より好ましくは１以上２以下であり、さらに好ましくは１である。

【００２５】
ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸の具体例としては、ヒドロキシデカン酸、ヒドロキシウンデカン酸、ヒドロキシウンデシレン酸、ヒドロキシラウリン酸、ヒドロキシトリデカン酸、ヒドロキシミリスチン酸、ヒドロキシペンタデカン酸、ヒドロキシパルミチン酸、ヒドロキシイソパルミチン酸、ヒドロキシパルミトレイン酸、ヒドロキシマルガリン酸、ヒドロキシステアリン酸、ヒドロキシイソステアリン酸、ヒドロキシオレイン酸、ヒドロキシリノール酸、ヒドロキシリノレン酸、ヒドロキシノナデカン酸、ヒドロキシアラキジン酸、ヒドロキシアラキドン酸、ヒドロキシベヘン酸、ヒドロキシエルカ酸、ヒドロキシリグノセリン酸、ヒドロキシネルボン酸、ヒドロキシセロチン酸、ヒドロキシモンタン酸、ヒドロキシメリシン酸等が挙げられ、これらのうち１種又は２種以上を用いることができる。
上記の中でも、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、ヒドロキシ基を有する炭素数１０以上３０以下の脂肪酸としては、好ましくはヒドロキシラウリン酸、ヒドロキシトリデカン酸、ヒドロキシミリスチン酸、ヒドロキシペンタデカン酸、ヒドロキシパルミチン酸、ヒドロキシイソパルミチン酸、ヒドロキシヘプタデカン酸、ヒドロキシステアリン酸、ヒドロキシイソステアリン酸、ヒドロキシオレイン酸、ヒドロキシリノール酸、ヒドロキシノナデカン酸、ヒドロキシエイコサン酸、及びヒドロキシベヘン酸からなる群から選ばれる１種以上であり、より好ましくはヒドロキシミリスチ

ン酸、ヒドロキシパルミチン酸、ヒドロキシステアリン酸、及びヒドロキシベヘン酸からなる群から選ばれる１種以上であり、さらに好ましくはヒドロキシステアリン酸である。ヒドロキシステアリン酸としては、油性組成物のシェアシニング性向上の観点、及び入手容易性の観点から、好ましくは１２－ヒドロキシステアリン酸である。

【００２６】

（炭素数１０以上３０以下のアルコール）

炭素数１０以上３０以下のアルコールは、油性組成物のシェアシニング性向上の観点から、好ましく炭素数１２以上、より好ましくは１４以上、さらに好ましくは１６以上であり、また、好ましくは２８以下、より好ましくは２４以下、さらに好ましくは２２以下である。該アルコールは、油性組成物のシェアシニング性向上の観点から、好ましくは飽和又は不飽和の一級アルコールであり、より好ましくは飽和一級アルコールである。

また前記アルコールは、油性組成物のシェアシニング性向上の観点から、好ましくは直鎖状又は分岐鎖状アルコールであり、より好ましくは直鎖状アルコールである。

【００２７】

炭素数１０以上３０以下のアルコールの具体例としては、デカノール、ウンデカノール、ラウリルアルコール、トリデシルアルコール、ミリスチルアルコール、ペンタデシルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、イソステアリルアルコール、オレイルアルコール、ベヘニルアルコール等が挙げられ、これらのうち１種又は２種以上を用いることができる。

上記の中でも、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、炭素数１０以上３０以下のアルコールとしては、好ましくはラウリルアルコール、トリデシルアルコール、ミリスチルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、及びベヘニルアルコールからなる群から選ばれる１種以上であり、より好ましくはミリスチルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、及びベヘニルアルコールからなる群から選ばれる１種以上であり、さらに好ましくはセチルアルコール、ステアリルアルコール、及びベヘニルアルコールからなる群から選ばれる１種以上である。

【００２８】

（炭素数１０以上３０以下のカルボン酸のアミド）

炭素数１０以上３０以下のカルボン酸のアミド（以下、単に「カルボン酸アミド」ともいう）としては、Ｒ－ＣＯＮＨ$_2$（Ｒは炭素数９以上２９以下の炭化水素基を示す。）で表される第１級カルボン酸アミド、Ｒ－ＣＯＮＨＲ’（Ｒは炭素数９以上２９以下の炭化水素基、Ｒ’は１価の炭化水素基を示す。）で表される第２級カルボン酸アミド、Ｒ－ＣＯＮＲ’Ｒ”（Ｒは炭素数９以上２９以下の炭化水素基、Ｒ’、Ｒ”はそれぞれ独立に１価の炭化水素基を示す。）で表される第３級カルボン酸アミドが挙げられる。これらの中でも、油性組成物のシェアシニング性向上の観点から、第１級カルボン酸アミドであることが好ましい。

前記カルボン酸は、油性組成物のシェアシニング性向上の観点から、好ましくは炭素数１２以上、より好ましくは１４以上、さらに好ましくは１６以上であり、また、好ましくは２８以下、より好ましくは２４以下、さらに好ましくは２２以下の、１価のカルボン酸である。

前記カルボン酸は、飽和カルボン酸、不飽和カルボン酸のいずれでもよい。

また前記カルボン酸は、油性組成物のシェアシニング性向上の観点から、好ましくは直鎖状又は分岐鎖状カルボン酸であり、より好ましくは直鎖状カルボン酸である。

【００２９】

前記カルボン酸アミドの具体例としては、デカン酸アミド、ウンデカン酸アミド、ウンデシレン酸アミド、ラウリン酸アミド、トリデカン酸アミド、ミリスチン酸アミド、ペンタデカン酸アミド、パルミチン酸アミド、イソパルミチン酸アミド、パルミトレイン酸アミド、マルガリン酸アミド、ステアリン酸アミド、イソステアリン酸アミド、オレイン酸アミド、リノール酸アミド、リノレン酸アミド、ノナデカン酸アミド、アラキジン酸アミド、アラキドン酸アミド、ベヘン酸アミド、エルカ酸アミド、リグノセリン酸アミド、ネ

ルボン酸アミド、セロチン酸アミド、モンタン酸アミド、メリシン酸アミド等が挙げられ、これらのうち１種又は２種以上を用いることができる。
上記の中でも、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、前記カルボン酸アミドとしては、好ましくはラウリン酸アミド、ミリスチン酸アミド、パルミチン酸アミド、パルミトレイン酸アミド、マルガリン酸アミド、ステアリン酸アミド、オレイン酸アミド、リノール酸アミド、リノレン酸アミド、アラキジン酸アミド、アラキドン酸アミド、及びベヘン酸アミドからなる群から選ばれる１種以上であり、より好ましくはパルミチン酸アミド、パルミトレイン酸アミド、マルガリン酸アミド、ステアリン酸アミド、オレイン酸アミド、リノール酸アミド、リノレン酸アミド、及びベヘン酸アミドからなる群から選ばれる１種以上であり、さらに好ましくはオレイン酸アミドである。

【００３０】
成分（Ｂ）は１種又は２種以上を用いることができる。
上記の中でも、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、成分（Ｂ）としては、好ましくはヒドロキシミリスチン酸、ヒドロキシパルミチン酸、ヒドロキシステアリン酸、ヒドロキシベヘン酸、ミリスチルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、パルミチン酸アミド、パルミトレイン酸アミド、マルガリン酸アミド、ステアリン酸アミド、オレイン酸アミド、リノール酸アミド、リノレン酸アミド、及びベヘン酸アミドからなる群から選ばれる１種以上であり、より好ましくはヒドロキシステアリン酸、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、及びオレイン酸アミドからなる群から選ばれる１種以上である。さらに、固形製剤としての形状を保持するのに十分な硬さを付与する観点からは、好ましくは１２－ヒドロキシステアリン酸である。

【００３１】
＜成分（Ｃ）：成分（Ｂ）以外の油性成分＞
本発明の組成物は、成分（Ｃ）として、成分（Ｂ）以外の油性成分を含有する。
成分（Ｃ）としては、成分（Ａ）及び成分（Ｂ）を溶解させることが可能であって、常温（２５℃）で固体又は液体状の油剤が挙げられ、好ましくは不揮発性の油剤である。
本明細書において「不揮発性」とは、常圧で２６０℃を超える沸点を有することをいう。
成分（Ｃ）としては、例えば、炭化水素油、エステル油、エーテル油、シリコーン油、高級脂肪酸、フッ素系油、及びロウ類からなる群から選ばれる１種以上が挙げられる。

【００３２】
（炭化水素油）
炭化水素油としては、スクワレン、スクワラン、流動パラフィン、流動イソパラフィン、イソヘキサデカン、イソエイコサン、水添ポリイソブテン、軽質流動イソパラフィン、重質流動イソパラフィン、α－オレフィンオリゴマー、シクロパラフィン等が挙げられる。

【００３３】
（エステル油）
エステル油としては、合成エステル油、天然油脂等が挙げられ、例えば、１価カルボン酸と１価アルコールとのエステル、１価カルボン酸と多価アルコールとのエステル、多価カルボン酸と１価アルコールとのエステルが挙げられる。

【００３４】
１価カルボン酸と１価アルコールとのエステルとして、下記一般式（１）で表されるエステルが挙げられる。
$R^1-COO-R^2$　　（１）
一般式（１）において、R^1は、水酸基が置換していてもよく、炭素数１以上２５以下の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基、又は炭素数６以上２４以下の芳香族含有基を示し、R^2は、炭素数１以上３０以下の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示す。

【００３５】
R^1がアルキル基又はアルケニル基の場合、炭素数は、好ましくは７以上であり、そして、好ましくは２３以下、より好ましくは２１以下、さらに好ましくは１９以下、よりさらに好ましくは１７以下である。
R^1が芳香族含有炭化水素基の場合、炭素数は、好ましくは６以上であり、そして、好ましくは２２以下、より好ましくは２０以下である。
R^2の炭素数は、好ましくは２以上であり、そして、好ましくは２８以下、より好ましくは２４以下、さらに好ましくは２０以下である。
よりさらに好ましくは、一般式（１）において、R^1が炭素数７以上１７以下の直鎖又は分岐鎖アルキル基、又は炭素数６以上２４以下の芳香族含有基であり、R^2が炭素数２以上２４以下の直鎖又は分岐鎖アルキル基であるエステルである。
【００３６】
一般式（１）で表されるエステルの具体例としては、イソオクタン酸セチル、イソオクタン酸ステアリル、イソノナン酸イソノニル、イソノナン酸イソトリデシル、ラウリン酸ヘキシル、ラウリン酸イソステアリル、ミリスチン酸ブチル、ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸デシル、ミリスチン酸イソトリデシル、ミリスチン酸イソセチル、ミリスチン酸イソステアリル、ミリスチン酸２－オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、パルミチン酸２－エチルヘキシル、パルミチン酸イソステアリル、パルミチン酸２－ヘキシルデシル、ステアリン酸２－エチルヘキシル、ステアリン酸２－ヘキシルデシル、イソステアリン酸イソプロピル、イソステアリン酸２－ヘキシルデシル、オレイン酸エチル、オレイン酸イソデシル、オレイン酸オレイル、オレイン酸オクチルドデシル、リノール酸エチル、リノール酸イソプロピル、酢酸ラノリン、ヒマシ油脂肪酸メチル（リシノレイン酸メチル）、メトキシ桂皮酸エチルヘキシル、及び安息香酸アルキル（アルキルの炭素数１２～１５）からなる群から選ばれる１種以上が挙げられる。
【００３７】
１価カルボン酸と１価アルコールとのエステルとして、下記一般式（２）で表されるエステルも挙げられる。
$R^3-COO-(AO)_n-R^4$　　（２）
一般式（２）において、R^3は、水酸基が置換していてもよく、炭素数１以上２５以下の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示し、R^4は炭素数６以上２４以下の芳香族含有炭化水素基を示す。ＡＯは、炭素数２以上４以下のアルキレンオキシ基を示し、ｎは１以上５０以下の平均付加モル数を表す。
R^3は、好ましくは炭素数が７以上であり、そして、好ましくは２３以下、より好ましくは２１以下、さらに好ましくは１９以下のアルキル基である。
R^4は、好ましくは炭素数が６以上であり、そして、好ましくは２２以下、より好ましくは２０以下、さらに好ましくは１８以下の芳香族含有炭化水素基、よりさらに好ましくはベンジル基である。
ＡＯ基は、好ましくはプロピレンオキシ基であり、ｎは、好ましくは１以上１０以下、より好ましくは１以上５以下である。
一般式（２）で表されるエステルの具体例としては、ミリスチン酸とベンジルアルコールのプロピレンオキシド３モル付加体とのエステル（クローダ社製「クロダモルＳＴＳ」）、２－エチルヘキサン酸とベンジルアルコールのプロピレンオキシド３モル付加体とのエステル（クローダ社製「クロダモルＳＦＸ」）等が挙げられる。
【００３８】
１価カルボン酸と多価アルコールとのエステルとして、下記一般式（３）で表されるエステルが挙げられる。
$R^5-(OCOR^6)_p$　　（３）
一般式（３）において、R^5は多価アルコール残基を示し、好ましくは炭素数２以上１０以下の炭化水素基であり、R^6は炭素数１以上２５以下の１価カルボン酸残基を示し、ｐは２以上１０以下の整数を示す。

なお、R^5はエーテル結合を有してもよいが、好ましくは炭素数２以上１０以下の直鎖又は分岐鎖の炭化水素基である。また、ｐは前記多価アルコールが有するヒドロキシ基と同じ数である。但し、前記多価アルコールが有する一部のヒドロキシ基がエステル化されていない化合物が少量含まれることを排除するものではない。

R^6は、好ましくは炭素数が７以上であり、そして、前記と同様の観点から、好ましくは２３以下、より好ましくは２１以下、さらに好ましくは１９以下のアルキル基である。

よりさらに好ましくは、一般式（３）において、R^5がグリセリン残基又はペンタエリスリトール残基であり、R^6が炭素数７以上１９以下のアルキル基であるエステルである。

【００３９】

一般式（３）で表されるエステルの具体例としては、ジカプリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、ジ２－エチルヘキサン酸ネオペンチルグリコール、ジ（カプリル酸／カプリン酸）プロパンジオール、ジイソステアリン酸プロパンジオール、ジ２－エチルヘキサン酸エチレングリコール、トリ（カプリル酸／カプリン酸）グリセリル、トリ２－エチルヘキシル酸グリセリル、トリ２－ヘプチルウンデカン酸グリセリル、トリ２－エチルヘキシル酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ２－エチルヘキサン酸ペンタエリスリトール、天然油脂が挙げられる。

天然油脂としてはアボカド油、オリーブ油、ゴマ油、コメヌカ油、サフラワー油、ダイズ油、トウモロコシ油、ナタネ油、ヒマシ油、綿実油、ミンク油等のトリグリセリドが挙げられる。

【００４０】

多価カルボン酸と１価アルコールとのエステルとしては、下記一般式（４）で表されるエステルも挙げられる。

$R^7-(COOR^8)_q$　　（４）

一般式（４）において、R^7は炭素数２以上１０以下の多価カルボン酸残基であり、R^8は炭素数１以上２４以下の１価アルコール残基を示し、ｑは２以上１０以下の整数である。また、ｑは前記多価カルボン酸が有するカルボキシ基と同じ数である。但し、前記多価カルボン酸が有する一部のカルボキシ基がエステル化されていない化合物が少量含まれることを排除するものではない。

R^8は、好ましくは炭素数３以上、より好ましくは６以上であり、そして、前記と同様の観点から、好ましくは２２以下、より好ましくは２０以下、さらに好ましくは１８以下である。

よりさらに好ましくは、一般式（４）において、R^7がトリメリット酸残基であり、R^8が炭素数６以上１８以下の分岐鎖アルキル基であるエステルである。

【００４１】

一般式（４）で表されるエステルの具体例としては、リンゴ酸ジイソステアリル、コハク酸ジ２－エチルヘキシル、アジピン酸ジイソブチル、アジピン酸ジ２－ヘプチルウンデシル、セバシン酸ジ２－エチルヘキシル、セバシン酸ジイソプロピル、トリメリット酸トリ２－エチルヘキシル等が挙げられる。

【００４２】

上記の中でも、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、エステル油としては、好ましくは一般式（１）で表される、１価カルボン酸と１価アルコールとのエステル、一般式（３）で表される、１価カルボン酸と多価アルコールとのエステル、又は一般式（４）で表される、多価カルボン酸と１価アルコールとのエステルであり、より好ましくは、一般式（１）で表される、１価カルボン酸と１価アルコールとのエステルである。

【００４３】

（エーテル油）

エーテル油としては、下記一般式（５）で表されるジアルキルエーテル化合物、又は下

記一般式（６）で表されるポリオキシアルキレンアルキルエーテル化合物が挙げられる。

R^9-O-R^{10}　　（５）

一般式（５）において、R^9及びR^{10}は、各々独立に、炭素数６以上２２以下の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基、又は炭素数６以上２４以下の芳香族炭化水素基を示す。

R^9及びR^{10}は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、好ましくはアルキル基であり、その炭素数は、好ましくは８以上であり、好ましくは１８以下、より好ましくは１６以下、さらに好ましくは１２以下である。

【００４４】

$R^{11}-O-(PO)_r(EO)_s-H$　　（６）

一般式（６）において、R^{11}は炭素数６以上２２以下のアルキル基又はアルケニル基を示し、ＰＯはプロピレンオキシ基を示し、ＥＯはエチレンオキシ基を示す。ｒは０．１以上１５以下の平均付加モル数を示し、ｓは０以上１０以下の平均付加モル数を示す。ｓが０でない場合、ＰＯ及びＥＯの付加形式は、ランダムであってもブロックであってもよい。

R^{11}の炭素数は、好ましくは８以上であり、そして、好ましくは２０以下、より好ましくは１８以下、さらに好ましくは１２以下である。

平均付加モル数ｒは、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、好ましくは１以上、より好ましくは２以上、さらに好ましくは３以上であり、そして、好ましくは１３以下、より好ましくは１０以下であり、平均付加モル数ｓは、好ましくは５以下、より好ましくは１以下、さらに好ましくは０である。

一般式（６）で表されるポリオキシアルキレンアルキルエーテル化合物としては、ポリプロピレングリコール、プロピレンオキシ基の平均付加モル数ｒが３以上１０以下である、ポリオキシプロピレンオクチルエーテル、ポリオキシプロピレンデシルエーテル、及びポリオキシプロピレンラウリルエーテルからなる群から選ばれる１種以上が好ましい。

【００４５】

（シリコーン油）

シリコーン油としては、ジメチルポリシロキサン（ジメチコン）、ジメチコノール（末端にヒドロキシ基を有するジメチルポリシロキサン）、メチルフェニルポリシロキサン、及び変性シリコーンからなる群から選ばれる１種以上が好ましい。

変性シリコーンとしては、ポリエーテル変性シリコーン、グリセリル変性シリコーン、カルボキシ変性シリコーン、脂肪酸変性シリコーン、アルコール変性シリコーン、脂肪族アルコール変性シリコーン、エポキシ変性シリコーン、フッ素変性シリコーン、アルキル変性シリコーン等が挙げられる。

上記の中でも、シェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点から、シリコーン油としては、好ましくはジメチルポリシロキサン、ジメチコノール、メチルフェニルポリシロキサン、及び変性シリコーンからなる群から選ばれる１種以上であり、より好ましくはジメチルポリシロキサン、ジメチコノール、及びポリエーテル変性シリコーンからなる群から選ばれる１種以上であり、さらに好ましくはジメチルポリシロキサンである。

【００４６】

（高級脂肪酸）

高級脂肪酸としては、炭素数８以上、好ましくは炭素数１２以上の、ヒドロキシ基を有さない脂肪酸が挙げられ、例えば、カプリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、イソパルミチン酸、ステアリン酸、イソステアリン酸、オレイン酸、ベヘン酸、ヤシ油脂肪酸、ラノリン脂肪酸等が挙げられる。

【００４７】

（フッ素系油）

フッ素系油としては、フルオロポリエーテル等が挙げられる。

【００４８】

（ロウ類）

ロウ類としては、ミツロウ、鯨ロウ、ラノリン、カルナウバロウ等が挙げられる。

【００４９】

成分（Ｃ）は１種又は２種以上を用いることができる。

上記の中でも、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性の向上の観点、化粧料等に用いる油性組成物を得る観点からは、成分（Ｃ）は、好ましくは炭化水素油及びエステル油からなる群から選ばれる１種以上であり、より好ましくは流動パラフィン、及び前記一般式（１）で表されるエステルからなる群から選ばれる１種以上であり、さらに好ましくは流動パラフィン、パルミチン酸イソプロピル、及びメトキシ桂皮酸エチルヘキシルからなる群から選ばれる１種以上であり、よりさらに好ましくはパルミチン酸イソプロピルである。

【００５０】

＜含有量＞

油性組成物中の成分（Ａ）の含有量は、油性組成物の低せん断速度下での粘度向上、及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは０．１質量％以上、より好ましくは０．５質量％以上、さらに好ましくは１質量％以上、よりさらに好ましくは２質量％以上であり、また、油性組成物の高せん断速度下での低粘度性の観点から、好ましくは３０質量％以下、より好ましくは２０質量％以下、さらに好ましくは１０質量％以下、よりさらに好ましくは８質量％以下、よりさらに好ましくは５質量％以下である。

【００５１】

油性組成物中の成分（Ｂ）の含有量は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは０．１質量％以上、より好ましくは０．５質量％以上、さらに好ましくは１質量％以上、よりさらに好ましくは２質量％以上である。また、油性組成物の弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは３０質量％以下、より好ましくは２０質量％以下、さらに好ましくは１０質量％以下、よりさらに好ましくは８質量％以下、よりさらに好ましくは５質量％以下である。

【００５２】

油性組成物中の成分（Ａ）及び成分（Ｂ）の合計含有量は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは０．２質量％以上、より好ましくは０．５質量％以上、さらに好ましくは１質量％以上、よりさらに好ましくは２質量％以上、よりさらに好ましくは４質量％以上、よりさらに好ましくは５質量％以上である。また、油性組成物の高せん断速度下での低粘度性の観点から、好ましくは６０質量％以下、より好ましくは４０質量％以下、さらに好ましくは２０質量％以下、よりさらに好ましくは１５質量％以下、よりさらに好ましくは１０質量％以下である。

【００５３】

油性組成物中の成分（Ｂ）の含有量に対する成分（Ａ）の含有量の割合（質量比Ａ／Ｂ）は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは０．１以上、より好ましくは０．３以上、さらに好ましくは０．５以上、より更に好ましくは０．７以上である。また、油性組成物の高せん断速度下での低粘度性の観点、及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは２０以下、より好ましくは１５以下、さらに好ましくは１０以下、よりさらに好ましくは５．０以下、よりさらに好ましくは３．０以下、よりさらに好ましくは２．０以下、よりさらに好ましくは１．５以下である。

【００５４】

油性組成物中の成分（Ｃ）の含有量は、成分（Ａ）及び成分（Ｂ）の溶解性向上の観点から、好ましくは４０質量％以上、より好ましくは５０質量％以上、さらに好ましくは６０質量％以上、よりさらに好ましくは７０質量％以上、よりさらに好ましくは８０質量％以上、よりさらに好ましくは８５質量％以上であり、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは９９．８質量％以下、より好ましくは９８質量％以下、さらに好ましくは９５質量％以下である。

【００５５】

油性組成物中の成分（Ｃ）の含有量に対する成分（Ａ）の含有量の割合（質量比Ａ／Ｃ

）は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは０．００１以上、より好ましくは０．００５以上、さらに好ましくは０．０１以上、よりさらに好ましくは０．０２以上であり、また、好ましくは０．５以下、より好ましくは０．２以下、さらに好ましくは０．１以下、よりさらに好ましくは０．０８以下、よりさらに好ましくは０．０６以下である。

【００５６】

油性組成物中の成分（Ｃ）の含有量に対する成分（Ｂ）の含有量の割合（質量比Ｂ／Ｃ）は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは０．００１以上、より好ましくは０．００５以上、さらに好ましくは０．０１以上、よりさらに好ましくは０．０２以上であり、また、好ましくは０．５以下、より好ましくは０．２以下、さらに好ましくは０．１以下、よりさらに好ましくは０．０８以下、よりさらに好ましくは０．０６以下である。

【００５７】

油性組成物中の成分（Ａ）～（Ｃ）の合計含有量は、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、好ましくは５０質量％以上、より好ましくは７０質量％以上、さらに好ましくは８０質量％以上、よりさらに好ましくは９０質量％以上、よりさらに好ましくは９５質量％以上であり、１００質量％以下である。

【００５８】

油性組成物には、上記以外に、必要に応じて他の成分、例えば、界面活性剤、ｐＨ調整剤、成分（Ｂ）、（Ｃ）以外の紫外線吸収剤、酸化防止剤、防腐剤、制汗剤、香料、保湿剤、感触調整剤、抗炎症剤等を含有させることもできる。

【００５９】

本発明の組成物は、油性組成物であることから、水の含有量が少ないことが好ましい。油性組成物中の水の含有量は、好ましくは１質量％未満、より好ましくは０．５質量％以下、さらに好ましくは０．２質量％以下、よりさらに好ましくは０．１質量％以下であり、よりさらに好ましくは実質０質量％である。但し、前記水の含有量は、意図的に配合する水の量であり、成分（Ａ）～（Ｃ）に予め含まれている水分の含有を排除するものではない。

【００６０】

本発明の油性組成物は、水以外の水性媒体の含有量が少ないことが好ましい。該水性媒体としては、炭素数４以下の一級アルコール、例えば、メタノール、エタノール、プロパノール、及びブタノールが挙げられる。油性組成物中の水性媒体の含有量は、好ましくは１０質量％以下、より好ましくは５質量％以下、さらに好ましくは２質量％以下、よりさらに好ましくは１質量％以下、よりさらに好ましくは０．１質量％以下であり、よりさらに好ましくは実質０質量％である。

【００６１】

本発明の組成物は、シェアシニング性及び弾性率の回復性向上の観点から、ヒドロキシクエン酸誘導体及び／又はその塩の含有量が少ないことが好ましい。油性組成物中のヒドロキシクエン酸誘導体及び／又はその塩の含有量は、好ましくは１質量％未満、より好ましくは０．１質量％以下、さらに好ましくは０．０１質量％以下、よりさらに好ましくは０．００１質量％以下であり、よりさらに好ましくは実質０質量％である。

【００６２】

＜粘度＞

本発明の油性組成物は、高シェアシニング性を有する。具体的には、油性組成物の２５℃における粘度が、せん断速度０．００５（１／ｓ）において３，０００Ｐａ・ｓ以上であり、且つせん断速度１００（１／ｓ）において２０Ｐａ・ｓ以下であることが好ましく、せん断速度０．００５（１／ｓ）において１０，０００Ｐａ・ｓ以上であり、且つせん断速度１００（１／ｓ）において１０Ｐａ・ｓ以下であることがより好ましく、せん断速度０．００５（１／ｓ）において３０，０００Ｐａ・ｓ以上であり、且つせん断速度１００（１／ｓ）において５．０Ｐａ・ｓ以下であることがさらに好ましく、せん断速度０．

００５（１／ｓ）において４０，０００Ｐａ・ｓ以上であり、且つせん断速度１００（１／ｓ）において１．５Ｐａ・ｓ以下であることがさらに好ましい。
油性組成物の粘度はレオメーターで測定することができ、具体的には実施例に記載の方法で測定できる。
【００６３】
＜弾性率の回復性＞
本発明の油性組成物は、せん断応力をかけた後の弾性率の回復性が高い。具体的には、レオメーターを用い、２５℃において、ひずみ０．０１％、周波数１Ｈｚの条件で測定した油性組成物の貯蔵弾性率（初期の貯蔵弾性率ａ）と、該油性組成物に３０００％のひずみ（周波数１Ｈｚ）を０．０２秒間与えた後に、ひずみ０．０１％、周波数１Ｈｚに戻し、１２００秒後に測定した貯蔵弾性率（貯蔵弾性率ｂ）とを測定し、下記式より求められる貯蔵弾性率の回復率が、好ましくは５０％以上、より好ましくは６０％以上、さらに好ましくは７０％以上、よりさらに好ましくは８０％以上、よりさらに好ましくは９０％以上であり、よりさらに好ましくは１００％である。
貯蔵弾性率の回復率（％）＝ｂ／ａ×１００
油性組成物の貯蔵弾性率及びその回復率は、具体的には実施例に記載の方法で測定できる。
【００６４】
［乳化組成物］
本発明は、前記油性組成物と、水とを含有する乳化組成物を提供する。該乳化組成物は水中油型乳化組成物、油中水型乳化組成物のいずれでもよい。
乳化組成物中の前記油性組成物の含有量は、乳化組成物の形態に応じて適宜選択することができるが、得られる乳化組成物の安定性の観点、及び、油性組成物由来の性能を発揮する観点から、好ましくは１質量％以上９５質量％以下、より好ましくは５質量％以上９０質量％以下、さらに好ましくは１０質量％以上８０質量％以下である。
乳化組成物中の水の含有量も、乳化組成物の形態に応じて適宜選択することができるが、通常、１質量％以上９９質量％以下、好ましくは５質量％以上９０質量％以下である。
【００６５】
乳化組成物には、前記油性組成物及び水以外に、揮発性有機溶剤、乳化剤、界面活性剤、ｐＨ調整剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、防腐剤、制汗剤、香料、保湿剤、感触調整剤、抗炎症剤等を含有させることもできる。
【００６６】
油性組成物及び乳化組成物の製造方法は特に制限されず、常法により製造することができる。
【００６７】
［化粧料］
本発明は、前記油性組成物又は乳化組成物を含有する化粧料を提供する。前記油性組成物及び乳化組成物は、そのまま化粧料として用いることもでき、美容成分等の機能性成分をさらに添加して化粧料としてもよい。
該化粧料としては、油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性が高いという本発明の効果を有効に発揮する観点から、好ましくは皮膚化粧料であり、例えば、口紅、グロス、ファンデーション、化粧下地、日焼け止め、乳液、美容液、クリーム等が挙げられる。
化粧料の剤型には特に制限はなく、固形状、液体状、泡状、ペースト状、ジェル状、クリーム状等、任意の剤型とすることが可能である。油性組成物のシェアシニング性及び弾性率の回復性が高いという本発明の効果を有効に発揮する観点からは、化粧料の剤型は、好ましくは固形状である。
【００６８】
＜組成物の用途＞
油性組成物及び乳化組成物は、化粧料以外の外用剤としても好適に用いられる。化粧料

以外の外用剤としては、例えば、薬効成分を配合したバーム、スティック、クリーム、ローション、軟膏等の各種皮膚外用剤が挙げられる。

【実施例】

【００６９】

以下、本発明を実施例により説明するが、本発明は実施例の範囲に限定されない。なお本実施例において、各種測定及び評価は以下の方法により行った。

【００７０】

＜融点の測定＞

成分（Ａ）の融点は、示差走査熱量計「ＤＳＣ７０００Ｘ」（（株）日立ハイテクサイエンス製）を用いて測定した。試料０．０２ｇをアルミパンに計量し、１００℃まで昇温した後、１００℃から降温速度１０℃／ｍｉｎで０℃まで冷却した。次いで、試料を昇温速度１０℃／ｍｉｎで昇温し、熱量を測定し、吸熱の最大ピーク温度を融点とした。

【００７１】

＜せん断粘度の測定＞

各例で得られた油性組成物のせん断粘度（単位：Ｐａ・ｓ）は、レオメーター（ＡｎｔｏｎＰａａｒ製「ＭＣＲ３０２」）を用いて測定した。スピンドルはＣＰ２５－２（コーンプレート、コーン半径２５ｍｍ、コーン角１．９８４°）を用い、測定チャンバー内は２５℃とした。測定試料である油性組成物は、事前に９０℃で加熱し、均一溶解した状態で治具に乗せ、室温で５分間放置し冷却したものを用いた。

せん断速度０．００５（１／ｓ）～５０００（１／ｓ）の間を低速度側から高速度側に掃引して前記油性組成物のせん断粘度を測定し、せん断速度０．００５（１／ｓ）及び１００（１／ｓ）におけるせん断粘度の値を表に示した。せん断速度０．００５（１／ｓ）におけるせん断粘度は「硬さ」の評価値であり、値が大きいほど油性組成物が硬いことを意味する。せん断速度１００（１／ｓ）におけるせん断粘度は「塗りやすさ」の評価値であり、値が小さいほど油性組成物が対象物に塗り広げやすいことを意味する。

【００７２】

＜貯蔵弾性率の回復率＞

各例で得られた油性組成物の貯蔵弾性率の回復率（単位：％）は、レオメーター（ＡｎｔｏｎＰａａｒ製「ＭＣＲ３０２」）を用いて、以下の手順で測定した。スピンドルはＣＰ２５－２（コーンプレート、コーン半径２５ｍｍ、コーン角１．９８４°）を用いた。測定チャンバー内は２５℃とした。測定試料である油性組成物は、事前に９０℃で加熱し、均一溶解した状態で治具に乗せ、室温で５分間放置し冷却したものを用いた。

まず、ひずみ０．０１％、周波数１Ｈｚの条件で油性組成物の貯蔵弾性率を１分間計測したのち、３０００％のひずみ（周波数１Ｈｚ）を０．０２秒間油性組成物に与えた。その後ひずみ０．０１％、周波数１Ｈｚに戻し、１２００秒間計測を続けた。測定点数は１秒間に１点とし、貯蔵弾性率の時間経過を観測した。

計測終了時の貯蔵弾性率を、３０００％のひずみを与える直前の貯蔵弾性率で除し、百分率で表した値を「貯蔵弾性率の回復率」として表に示した。値が大きいほど、せん断応力をかけた後の油性組成物の弾性率の回復性に優れることを意味する。

【００７３】

実施例１～１３、比較例１～２（油性組成物の調製及び評価）

表に記載の各成分を必要量秤量して１０ｍＬガラスバイアルに入れ、９０℃で加熱して、透明になるまで攪拌した。その後室温に放置して冷却し、油性組成物を得た。得られた油性組成物について、前記方法で各種評価を行った。結果を表１～２に示す。

なお、表に記載の配合量（質量％）は、いずれも有効成分量である。

【００７４】

【表１】

表 1

	（質量%）	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8	実施例9	実施例10	実施例11	実施例12	実施例13
(A)	ポリ(アクリル酸ステアリル) (TEGO SP 13-1)	3		3	3	3	3	3	0.9	1.5	2.1	6	3	3
	ポリ(アクリル酸ベヘニル) (TEGO SP 13-6)		3											
(B)	12-ヒドロキシステアリン酸	3	3				3	3	3	3	3	3	1	2
	ステアリルアルコール			7.5										
	ベヘニルアルコール				7.5									
	オレアミド					3								
(C)	パルミチン酸イソプロピル	94	94	89.5	89.5	94			96.1	95.5	94.9	91	96	95
	流動パラフィン						94							
	メトキシ桂皮酸エチルヘキシル							94						
	合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	成分(A)含有量（質量%）	3	3	3	3	3	3	3	0.9	1.5	2.1	6	3	3
	成分(B)含有量（質量%）	3	3	7.5	7.5	3	3	3	3	3	3	3	1	2
	成分(C)含有量（質量%）	94	94	89.5	89.5	94	94	94	96.1	95.5	94.9	91	96	95
	成分(A),(B) 合計含有量（質量%）	6	6	10.5	10.5	6	6	6	3.9	4.5	5.1	9	4	5
	A/B	1.0	1.0	0.4	0.4	1.0	1.0	1.0	0.3	0.5	0.7	2.0	3.0	1.5
	A/C	0.032	0.032	0.034	0.034	0.032	0.032	0.032	0.009	0.016	0.022	0.066	0.031	0.032
	B/C	0.032	0.032	0.084	0.084	0.032	0.032	0.032	0.031	0.031	0.032	0.033	0.010	0.021
評価結果	せん断粘度(0.005(1/s)) (Pa･s)	193000	30900	122000	17800	37400	355000	130000	3600	15000	68800	220000	28500	45900
	せん断粘度(100(1/s)) (Pa･s)	0.34	1.0	1.6	0.9	0.9	11.2	8.1	0.2	0.4	0.8	3.0	0.9	1.5
	貯蔵弾性率の回復率（%）	100	100	72	68	100	100	78	100	100	100	100	56	100

【００７５】

【表２】
表 2

(質量%)		実施例1	比較例1	比較例2
(A)	ポリ(アクリル酸ステアリル) (TEGO SP 13-1)	3		3
	ポリ(アクリル酸ベヘニル) (TEGO SP 13-6)			
(B)	12-ヒドロキシステアリン酸	3	3	
	ステアリルアルコール			
	ベヘニルアルコール			
	オレアミド			
(C)	パルミチン酸イソプロピル	94	97	97
	流動パラフィン			
	メトキシ経皮酸エチルヘキシル			
合計		100	100	100
成分(A)含有量（質量%）		3	0	3
成分(B)含有量（質量%）		3	3	0
成分(C)含有量（質量%）		94	97	97
成分(A),(B) 合計含有量（質量%）		6	3	3
A/B		1	0	–
A/C		0.032	0	0.031
B/C		0.032	0.031	0
評価結果	せん断粘度(0.005(1/s)) (Pa･s)	193000	27200	3600
	せん断粘度(100(1/s)) (Pa･s)	0.34	17.1	0.9
	貯蔵弾性率の回復率（%）	100	41	3.6

【００７６】
表に記載の成分は下記である。なお、入手した各製品は精製せずに実験に供した。
＜成分（Ａ）＞
ポリ（アクリル酸ステアリル）：ＥＶＯＮＩＫ製「ＴＥＧＯ　ＳＰ　１３－１」、融点：４９℃、Ｍｗ：１０万
ポリ（アクリル酸ベヘニル）：ＥＶＯＮＩＫ製「ＴＥＧＯ　ＳＰ　１３－６」、融点：６６℃、Ｍｗ：１０万
＜成分（Ｂ）＞
１２－ヒドロキシステアリン酸：富士フイルム和光純薬（株）製
ステアリルアルコール：花王（株）製「カルコール８０２８」
ベヘニルアルコール：花王（株）製「カルコール２２Ｄ－８０」
オレアミド：富士フイルム和光純薬（株）製、オレイン酸アミド
＜成分（Ｃ）＞
パルミチン酸イソプロピル：富士フイルム和光純薬（株）製
流動パラフィン：富士フイルム和光純薬（株）製
メトキシ桂皮酸エチルヘキシル：富士フイルム和光純薬（株）製
【００７７】
表１より、本発明の油性組成物は、低せん断速度下では粘度が高く、高せん断速度下では粘度が低くなるというシェアシニング性を有するとともに、せん断応力をかけた後の貯蔵弾性率の回復性が高いことがわかる。これに対し、表２によれば、成分（Ａ）を含有しない比較例１の油性組成物、及び、成分（Ｂ）を含有しない比較例２の油性組成物は、いずれも貯蔵弾性率の回復性が劣る結果となった。
【産業上の利用可能性】
【００７８】
本発明によれば、低せん断速度下では粘度が高く、高せん断速度下では粘度が低くなるというシェアシニング性を有するとともに、せん断応力をかけた後の弾性率の回復性が高い油性組成物を提供できる。該油性組成物は、外用剤として用いると、固形製剤としての

形状を保持するのに十分な硬さを有しながら、対象物に均一に塗り広げやすく、対象物への塗布後には落ちにくく、効果の持続性に優れる。

フロントページの続き

(51)国際特許分類		FI		テーマコード（参考）
Ａ６１Ｋ	*8/06 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/06	
Ａ６１Ｋ	*8/02 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/02	
Ａ６１Ｋ	*8/00 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/00	

Ｆターム（参考） AC642 AC811 AD091 AD092 AD151 BB11 DD30 DD31